

あいのしま

藍島

ささえ



プラン



住民発！藍島校区小地域福祉活動第一次計画(2023年～2027年)



 ふれあいネットワーク

藍島校区社会福祉協議会



住民発！藍島校区小地域福祉活動第一次計画  
**藍島ささえあいプラン**

も く じ

ごあいさつ .....	1
<b>第1章 計画策定にあたって .....</b>	<b>2</b>
1 計画の性格	
2 計画の期間	
3 計画の策定経過	
<b>第2章 藍島校区の現状と課題 .....</b>	<b>3</b>
1 地域社会の動向	
2 地域の福祉課題	
<b>第3章 計画体系.....</b>	<b>6</b>
1 基本理念	
2 基本目標	
3 実施項目（体系図）	
4 重点実施項目	
<b>第4章 計画の推進 .....</b>	<b>11</b>
1 計画の承認と周知	
2 計画を推進するための体制	
3 第二次計画の策定	
<b>参考資料.....</b>	<b>12</b>
1 策定委員会名簿	
2 策定委員会での協議事項	

## ごあいさつ

藍島は関門海峡の北西に浮かぶ小さな島です。基幹産業は漁業で、自然豊かな環境の中で200人ほどの住民とたくさんの猫が暮らしています。

私が今のメンバーと藍島校区社会福祉協議会を立ち上げたのは14年前。3人に1人以上が高齢者という状況のなか、社会資源が乏しく、市街地のように医療や介護サービスを受けることができない島の現状を見かね、藍島に住む人たちの生活と老後をなんとか支えていかなければという思いが原点です。

少子高齢化はさらに進み、日頃の買物や家事、介護など、日常生活に課題や不安を持つ方も増えています。

誰もが、住み慣れたこの島で、生きがいを感じながら安心して暮らしていくためには、住民や関係者全員が福祉課題を共有し、自助・互助・公助が一丸となった福祉活動を進めていかなければなりません。

そこで、藍島校区では「生まれ育った、住み慣れたこの島で、これからも家族や友人と安全・安心に生活したい」を基本理念とする、小地域福祉活動第一次計画「藍島ささえあいプラン（2023年度～2027年度）」を新たに策定しました。

「島民による、島民のために」を合言葉に、みんなで将来の見通しを持って計画的に取り組んでいきたいと思えます。また、この計画が島内外の様々な方々の参加や協働のきっかけとなり、藍島の地域福祉活動が進展していくことを切望いたします。

計画の策定にあたりご尽力いただいた策定委員ならびに関係者の皆さまに感謝申し上げますとともに、今後ともこの計画の推進にご支援を賜りますようお願い申し上げ、ごあいさつといたします。



令和5年4月

藍島校区社会福祉協議会  
会長 二見 隆

## 第1章 計画策定にあたって

### 1 計画の性格

#### (1) 住民発信の行動計画

この計画は、藍島校区の様々な福祉課題を解決するために、住民や民間団体が将来の見通しを持って計画的に活動しようとするための民間の行動計画です。

#### (2) 小地域の生活を支える計画

この計画は、藍島校区に住む人たちの「生活」を支えることを活動の原点とする計画です。

#### (3) 北九州市及び北九州市社会福祉協議会・小倉北区社会福祉協議会と協働する計画

この計画は、北九州市及び北九州市社会福祉協議会・小倉北区社会福祉協議会の計画と連携しながら地域福祉活動を進めていく計画です。

#### (4) 藍島校区社会福祉協議会の活動指針となる計画

この計画は、社会福祉協議会が地域福祉推進の中核的な団体としての方針や発展強化の道筋を明らかにする性格を有します。

### 2 計画の期間

2023年度（令和5年度）から2027年度（令和9年度）までの5ヵ年とします。計画の期間中、地域を取り巻く状況に大きな変化があれば、見直しを行います。

### 3 計画の策定経過

藍島校区では、地域福祉活動に取り組んでいる活動者や関係団体等からの意見を踏まえ、校区の地域福祉活動に関する計画を策定するため、令和4年9月22日に藍島校区小地域福祉活動計画策定委員会を設置しました。

10名の委員による、4回にわたる計画策定委員会での話し合いを通し、「藍島校区小地域福祉活動第一次計画」を策定しました。



## 第2章 藍島校区の現状と課題

### 1 地域社会の動向

#### (1) 藍島校区基本データ

##### ① 藍島校区の年代別人口・世帯数（参考）

令和4年9月	世帯数	人口	高齢者数	高齢化率	15歳未満
藍島	100世帯	200人	89人	44.5%	5人
馬島	13世帯	29人	18人	62.1%	0人

北九州市の高齢化率：31.3%

##### ② 藍島地域の社会資源など

###### 【交通・住まい】

- ・小倉北区浅野の渡船乗り場まで市営渡船で約35分（1日3往復のみ）
- ・島内の公共交通機関なし
- ・公営集合住宅なし



北九州市渡船  
(藍島～小倉)

###### 【学校】

- ・島で唯一の藍島小学校は、少ない児童数ながら、教員や島民等の努力により、充実した教育環境を維持してきたが、児童減少のため、令和5年度より休校となる



令和5年度より休校となる北九州市立藍島小学校

###### 【買い物】

- ・島で唯一の漁協購買店が閉店（令和3年）
- ・島民の有志等による渡船や漁船での買物代行や社協メンバー等によるネットスーパーでの買物注文の取りまとめなどで対応しているが、注文物品の制限や渡船渡し場から家への運搬など課題もある



令和3年に閉店した漁協運営の購買店

###### 【医療】

- ・診療所：1カ所のみ
- ・看護師：月曜～金曜まで勤務（1名体制）
- ・医師：週2日の来島（荒天時不可）  
※救急時は新小文字病院のドクターヘリ、夜間は消防の救急艇で搬送



###### 【介護サービス等】

- ・居宅介護支援事業所等なし
- ・訪問系の介護サービス等を提供できる事業所等なし
- ・渡船の発着と送迎時間が合わず、通所介護サービスを受けることが困難
- ・家から渡船乗場への移動や船内での座位の維持ができないと島外への移動が困難

## (2) 地域の特性

北九州市小倉北区に位置する藍島（あいのしま）は、関門海峡の北西に浮かぶ小さな島です。小倉北区の市街地から約7kmの沖合に位置し、面積約0.68km<sup>2</sup>の南北に細長い島で、集落は、南部の本村地区、中部の大泊地区、北部の寄浦地区の3地区に分散しています。

基幹産業は漁業で、島民の大半が何らかのかたちで漁業に従事しており、アワビ、ウニ、ワカメなど、海産物が豊富です。住民は約200人ほどですが、たくさんの数の猫が暮らしていることも有名で、釣り人のほか、可愛い猫を見たさに、平日・週末を問わず、多くの人が島を訪れます。小倉港から藍島行きの渡船に乗って約35分。自然豊かな環境の中で、ゆったりとした時間が流れています。

## 2 地域の福祉課題（及び小地域福祉活動の課題）

藍島には居宅介護支援事業所等がなく、渡船（1日3往復のみ）では、通所介護サービスも、訪問系の介護サービスも受けられない状況です。

医療体制は、藍島診療所1カ所のみで、月曜から金曜までは看護師1名が勤務しますが、医師は週に2日のみ渡船で来島するため、荒天などで船が欠航すると対応ができず、救急時には不安があります。

日常生活においては、島で唯一の漁協の購買店が令和3年に閉店したため、特に高齢者等は買物にも困難をきたしています。現在は、島民の有志等による渡船や漁船での買物代行や、社協メンバー等による支援などでなんとか対応していますが、注文できる物品には限りがあり、渡船の渡し場から自宅への運搬など課題もあります。

社会資源が不足し、少子高齢化が一段と進む藍島で、これからも家族や友人と安全・安心に生活していくためには、次世代の地域福祉活動を担う若手世代の協力が不可欠です。しかし、島への愛着や、「このままでは…」という思いや不安はあるものの、具体的な地域福祉活動に結びつくまでには至っていません。課題を共有し、5年後、10年後の公助・共助・互助の連携した藍島の未来の生活や夢を島民みんなで描いていくことが必要です。





## 第3章 計画体系

### 1 基本理念

「生まれ育った、住み慣れたこの島で、  
これからも家族や友人と安全・安心に生活したい」



私たちは、子どもから高齢者まで、誰もが住み慣れた我が家で安心して生活できる“かふれあい”と“支え合い”の島にしたいと願っています。そこで、住民一人一人の安全で安心な暮らしを守るため「生まれ育った、住み慣れたこの島で、これからも家族や友人と安全・安心に生活したい」という思いを藍島校区の小地域福祉活動計画の基本理念として推進していきます。

### 2 基本目標

#### ■ 基本目標1 「住民同士のつながりで地域の暮らしを支え合おう」

誰もが安心して暮らしていくため、公私の社会福祉関係者とも連携し、住民の主体的参加による「ふれあいネットワーク活動」を中心とした支援の輪をつくり、見守り・支え合いの地域福祉活動を進めます。支援が必要な方が地域で孤立しないよう、住民同士のつながりや人と人との絆を深めていくとともに、住み慣れた自分の家で、安心して生活が続けられるよう、日常生活に困難を抱える一人暮らし高齢者などを継続的に支えていくための助け合いのしくみづくりを進めていきます。

#### ■ 基本目標2 「ふれあいと交流の居場所をつくろう」

高齢者等がいつまでも健康で生き生きとした生活を送っていけるように、サロン活動や健康づくり・介護予防事業などを実施するほか、ICT等を活用し、子どもから高齢者まで、幅広い世代が楽しく交流できるふれあいの場や講座、行事などを企画・実施します。オンライン環境を整備していくことで、社会福祉関係機関等とも連携した各種相談会などの開催も検討していきます。

#### ■ 基本目標3 「活動者・応援者を発掘していこう」

若い世代にも気軽に地域活動に参加してもらえるよう、個人の興味や関心、ライフスタイルに応じた多様な地域活動や行事等への参加機会をつくり、これからの地域福祉活動の担い手を育てていきます。また、様々な人たちにも藍島に関心を持ってもらえるよう、SNSやYouTube、HP等を活用し、藍島の魅力や課題を広く発信していきます。島の課題解決に手を貸してもらったり、もっと魅力的にする取り組みに参画してもらったりするための話し合いの場をつくり、みんなで藍島の未来を描いていきます。

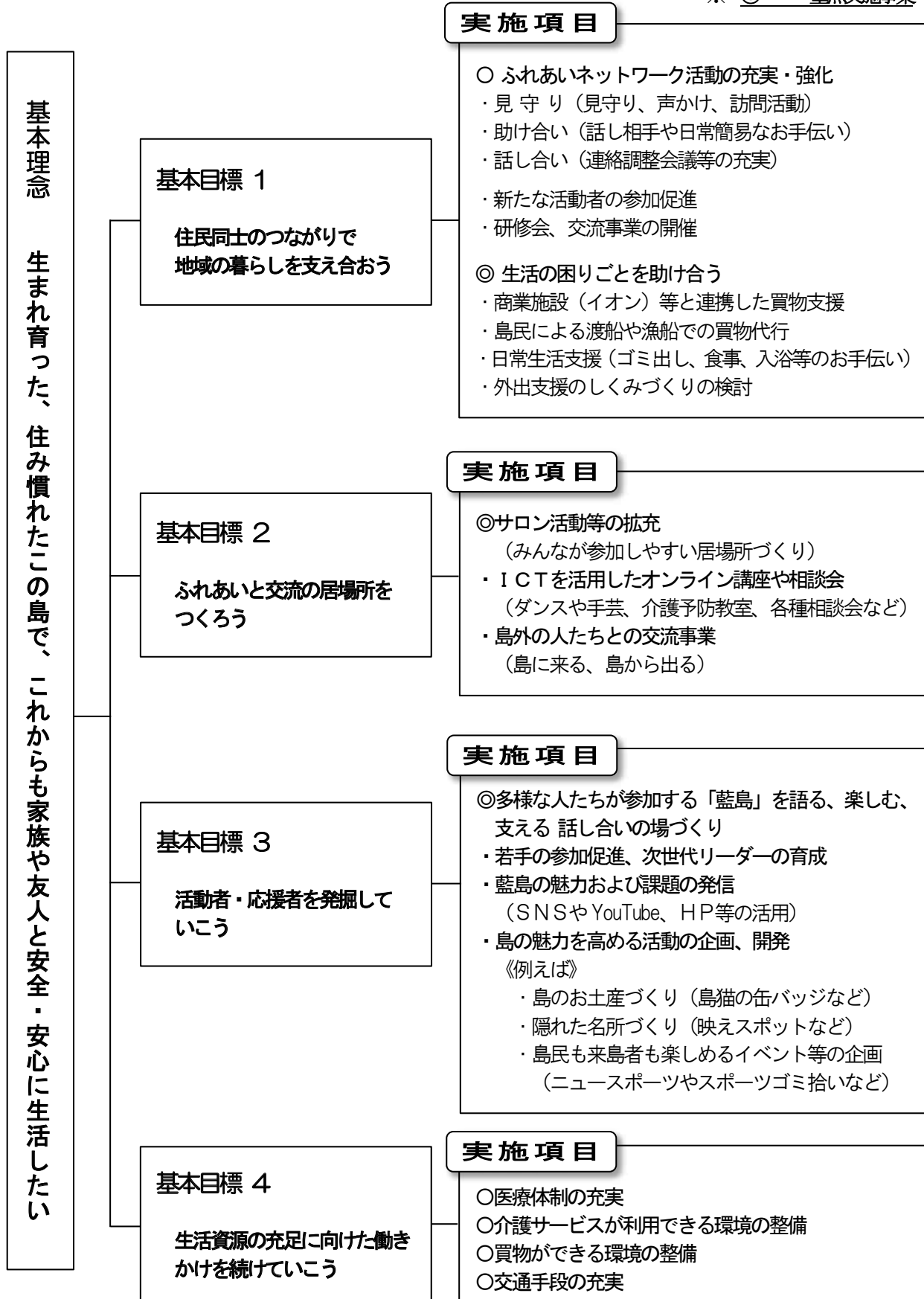
#### ■ 基本目標4 「生活資源の充足に向けた働きかけを続けていこう」

藍島は、医療や介護をはじめ、買い物、交通手段など日常生活の基盤を支える施設やサービスが不足しています。安全・安心な生活が続けるため、生活資源を増やしていく働きかけに協力していきます。



### 3 実施項目（体系図）

※ ◎ … 重点実施事業



## 4 重点実施項目

重点実施項目 - ①		生活の困りごとを助け合う					
1 課題背景及び地域の現状							
<p>藍島には居宅介護支援事業所等がなく、渡船(1日3往復のみ)では通所介護サービスを受けることが困難で、また、訪問系の介護サービス(ホームヘルパー)等を提供できる事業所もないため、介護保険サービスが受けられない状況です。また、令和3年に島で唯一の漁協購買店が閉店し、特に介護が必要な高齢者等は日常生活や買物にも困難をきたしています。</p> <p>現在は、島民の有志等による渡船や漁船での買物代行や、社協メンバー等によるイオンネットスーパー等の買物注文の取りまとめなどでなんとか対応していますが、注文できる物品には限りがあり、また、自分の手に取って品物を選ぶことはできません。さらに、渡船の渡し場から自宅への運搬など課題もあります。</p> <p>ますます進む少子高齢化のなか、乏しい社会資源と限られた地域活動者の努力だけでは、多様化する福祉ニーズへの対応が困難になってきている状況です。</p>							
2 活動の方針・目標							
<p>介護サービスの提供や島で買い物ができる環境など、生活に必要な社会資源の充足に向けた社会的な働きかけを、引き続き、島全体で続けていくことはもちろんですが、一方で、高齢者等の日々の福祉ニーズに対応していくためには、島民一人一人に地域福祉活動を身近なものと感じてもらい、若手世代を含む新たな協力者を増やしていかなければなりません。</p> <p>また、限られた住民だけでは対応できないニーズに応えていくためには、島外の様々な形の応援者を開拓していくことも考えていく必要があります。</p>							
3 段階的な取組みの年次計画							
取組み内容	連携する機関	2023	2024	2025	2026	2027	目標/備考
・買物の代行 ・商業施設を活用した買物支援 (オンラインスーパー等)	島民(漁協) 自治会 北九州市営渡船 企業、商業施設 ボランティア等						新たな協力者や買物手段等の開拓
日常生活支援 (ゴミ出し、食事、洗濯、入浴等)	島民 自治会 ボランティア等						・比較的簡易で単発的なニーズに対する支援の実施 ・生活支援サービスや活動者登録などのしぐみの検討
外出支援のしぐみづくりの検討	島民(漁協) 自治会 北九州市営渡船 企業、福祉施設 ボランティア等						新たな協力者や外出手段等の開拓

重点実施項目 - ②		サロン活動等の拡充					
1 課題背景及び地域の現状							
<p>藍島には居宅介護支援事業所等がなく、渡船(1日3往復のみ)では通所介護(デイサービス)を受けることが困難です。また、訪問系の介護サービス等を提供できる事業所もないため、訪問リハビリテーション等が受けられない状況です。</p> <p>高齢化が一段と進む、常駐の医師がいない藍島においては、日頃からの高齢者の健康維持や介護予防の取り組みがますます重要となっています。</p> <p>こうした中、社協メンバーが中心となって、毎週1回、藍島市民サブセンターで開催している藍島サロンには、高齢者等が集まり、ゲームや料理、おしゃべりなどをしながら交流を深めています。参加者の固定化や運営ボランティアの負担など、課題もあります。</p>							
2 活動の方針・目標							
<p>藍島サロンの拡充を図り、高齢者はもちろん、多世代が楽しんで参加できる、ふれあいや生きがい、健康づくりの場にしていくための取り組みを進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門職等による出張健康講座や介護予防教室などの実施</li> <li>・ICTを活用したオンライン講座(ダンス、手芸等)や各種相談会などの実施</li> <li>・島外のボランティアや子どもたちとの交流(来島)や、島外への外出の機会をつくる(お出かけ)</li> <li>・サロンの趣旨や意義を島民の方々に理解していただくための広報(参加促進、協力者の募集)</li> <li>・島外の様々な形の応援者を開拓</li> </ul>							
3 段階的な取組みの年次計画							
取組み内容	連携する機関	2023	2024	2025	2026	2027	目標/備考
健康講座や介護予防教室の充実	医師会 企業、福祉施設 行政機関 プロボノ等		→				各種専門機関 などと連携した 出前講座や介護 予防教室など の開催
ICTを活用したオンライン講座や 各種相談会などの実施	医師会 企業、福祉施設 行政機関 ボランティア団体 市民センター		→				オンライン講座 ダンス、手芸、 教養、等々 各種相談会 介護、終活、 心配ごと、等々
島外の人たちとの交流事業	各校(地)区社協 企業、福祉施設 学生(小中高大) ボランティア等 北九州市営渡船		→				島内での交流 事業(受入れ)  島外への外出 (お出かけ)

重点実施項目 - ③		多様な人たちが参加する、「藍島」を語る、楽しむ、支える、話し合いの場づくり						
1 課題背景及び地域の現状								
<p>社会資源が不足し、少子高齢化が一段と進む藍島で、これからも家族や友人と安全・安心に生活していくためには、公助・共助・互助の次世代の地域福祉活動を担う若手世代の協力が不可欠です。</p> <p>しかし、島への愛着や、「このままでは…」という思いや不安はあるものの、具体的な地域福祉活動に結びつくまでには至っていません。課題を共有し、5年後、10年後の藍島の未来の生活や夢を島民みんなで描いていくことが求められます。</p> <p>また、限られた島民の努力だけでは如何ともし難い、高い現実の壁があり、島外の様々な社会資源やボランティアなどの応援や支援を見つけ、受け入れる環境整備が必要です。</p>								
2 活動の方針・目標								
<p>様々な人たちにも藍島に関心を持ってもらえるよう、SNSや YouTube、HP等を活用し、藍島の魅力や課題を広く発信することで、島の課題解決に手を貸してもらったり、もっと魅力的にする取り組みに参画してもらったりするための話し合いの場をつくっていきます。</p> <p>若い世代にも、気軽に楽しく地域活動に参加してもらえるよう、個人の興味や関心、ライフスタイルに応じた多様な地域活動や行事等への参加機会をつくることで、将来の藍島の地域福祉活動の担い手を育てていきます。</p>								
3 段階的な取組みの年次計画								
取組み内容	連携する機関	2023	2024	2025	2026	2027	目標/備考	
多様な人たちが参加する「藍島」を語る、楽しむ、支える、話し合いの場づくり	企業、福祉施設 学生(小中高大) ボランティア 行政機関 プロボノ等		→					・広がる、楽しむ話し合いの場づくり ・次世代リーダーの育成
藍島の魅力や課題の発信	企業、福祉施設 学生(小中高大) ボランティア 行政機関 プロボノ等			→				SNSや YouTube、HP 等の活用
島の魅力を高める活動の企画、開発	企業、福祉施設 学生(小中高大) ボランティア 行政機関 プロボノ等			→				・島のお土産 (例:島猫缶バッジ) ・隠れた名所 (例:映えスポット) ・イベント等の企画

## 第4章 計画の推進

### 1 計画の承認と周知

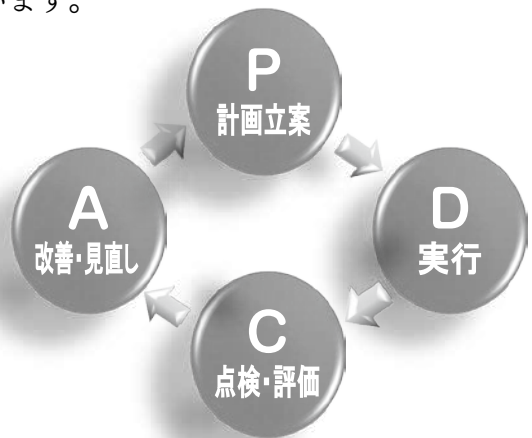
- （1）藍島校区社会福祉協議会の総会等を通じた社協活動者への計画の承認と周知
- （2）計画の実施項目を進めていく上での関係機関・団体への周知・協力依頼
- （3）計画書概要版の配布や広報紙、ホームページへの掲載等を通じた住民への周知など、計画を推進していくために、この計画の広報活動を行います。

### 2 計画を推進するための体制

#### （1）小地域福祉活動計画推進委員会の設置

計画を推進していくために、藍島校区小地域福祉活動計画推進委員会（以下、「推進委員会」という。）を設置し、計画の進行管理を行います。

- ① 関係機関・団体との連携
- ② 計画内容の具体的な実施方法
- ③ 進行管理の実施



#### （2）計画の進行管理（モニタリング）

推進委員会を年1～2回程度開催し、次の点について確認します。

- ① 当年度の事業推進の確認
- ② 年度内における中間確認
- ③ 次年度の事業確認

また、推進委員会では、PLAN（計画立案）、DO（実行）、CHECK（点検・評価）、ACT（改善）というPDCAのサイクルを回しながら、計画内の各実施項目の進捗状況を把握し、計画通り進行していない場合には、その原因を明らかにし、問題への対策を立て、その対応策を実施します。

#### （3）計画の評価

計画中間時点では計画全体の中間見直しを、最終年度には総括評価を行います。

### 3 第二次計画の策定

第一次計画の進捗状況を踏まえて、第二次計画の策定期間（第一次計画の最終年度：2027年度）には、新たに第二次計画策定委員会を設置し、次期計画策定に向けての協議を進めていきます。

**いつまでも、健康で、仲良く、私たちの大好きな“藍島”で住み続けていくために！**

『みんなが安心して暮らせる支え合いのまちづくり』にご協力をお願いします。

## 参考資料〔藍島校区小地域福祉活動計画策定経過〕

### 1 藍島校区小地域福祉活動計画策定委員会・推進委員会 委員名簿

	氏名	所属団体・役職など	委員区分
1	二見 隆	藍島校区社会福祉協議会 会長	策定・推進
2	西村 まゆみ	藍島校区社会福祉協議会 会計（民生委員・児童委員）	策定・推進
3	両羽 八千代	藍島校区社会福祉協議会 監事	策定・推進
4	山部 美枝子	藍島校区社会福祉協議会 監事	策定・推進
5	濱崎 春子	藍島校区社会福祉協議会 福祉協力員	策定・推進
6	上村 智奈美	藍島校区社会福祉協議会 福祉協力員	策定・推進
7	田中 律子	藍島校区社会福祉協議会 福祉協力員	策定・推進
8	両羽 礼子	藍島校区社会福祉協議会 福祉協力員	策定・推進
9	浦野 安子	藍島校区社会福祉協議会 福祉協力員	策定・推進
10	磯部 光子	藍島校区社会福祉協議会 福祉協力員	策定・推進
11	柴崎 なぎさ	藍島校区社会福祉協議会 福祉協力員	推進

※藍島校区社会福祉協議会会長を計画策定委員会及び推進委員会の委員長とする。

### 2 策定委員会、役員会等での作業・協議事項

回	開催日	主な内容・協議事項など
①	令和4年 9月 22日	<b>第1回策定委員会</b> ・計画策定の趣旨について ・福祉課題の抽出（カードワーク）、課題の分類・整理
②	令和4年 10月 21日	<b>第2回策定委員会</b> ・重点実施項目の選定と課題解決の検討（カードワーク）
③	令和5年 2月 28日	<b>第3回策定委員会</b> ・計画（素案）の提示、重点実施項目、体系図の検討協議
④	令和5年 3月 28日	<b>第4回策定委員会</b> ・計画書（素案）の校正、編集、広報について



活動計画策定委委員会のメンバー（第4回策定委員会終了後）

くつろぐ島猫たち



藍島小学校 卒業生の記念作品

## 小地域福祉活動とは？

わたしたちのまちにはいろいろな人たちが住んでいます。

お年寄りや障害を持っている人、子どもたちなど、地域のみんなが元気に安心して生活していくためには、本人や家族の努力、また、公的なサービスだけではむずかしいことがあります。

そこで、地域のボランティア活動や助け合い活動などを調整したり、新たに生み出したり、支え合いの仕組みをつくったりすることが必要になり、これを小地域福祉活動といいます。

小地域福祉活動は、自治会や小地域を基盤に行われる住民が参加する福祉活動で、北九州市では小学校区を基本単位としています。地域のいろいろな組織や住民一人一人が地域の問題解決のため、みんなで力を合わせて進めていきます。

校（地）区社会福祉協議会は、小地域福祉活動の要として、地域で生活している幅広い人たちが構成されています。

「自分たちの地域の福祉課題は、自分たちが解決していく！」という熱意を持ち、市・区社会福祉協議会と連携しながら、住民主体の福祉のまちづくりを推進しています。



社会福祉協議会のイメージキャラクター  
『プチボザウルス』(Petit vo saurus)

Petit (プチ：ちっちゃな)  
Volunteer (ボランティア)  
Saurus (サウルス≒恐竜)

### 藍島校区社会福祉協議会

〒802-0091 北九州市小倉北区藍島 243-3 藍島市民サブセンター内  
TEL：093-751-1311 FAX：093-751-1318

ホームページ <http://www.kitaq-shakyo.or.jp/kokurakita/ainoshima/>

検索

### 小倉北区社会福祉協議会

〒803-8510 北九州市小倉北区大手町 1-1 (小倉北区役所 3階)  
TEL：093-571-5452 FAX：093-571-9553

ホームページ <http://www.kitaq-shakyo.or.jp/kokurakita/>

検索

### 北九州市社会福祉協議会

〒804-0067 北九州市戸畑区汐井町 1-6 (ウエルとばた 8階)  
(代 表) TEL：093-882-4401 FAX：093-882-3579  
(地域福祉部) TEL：093-873-4425 FAX：093-873-1351

ホームページ <http://www.kitaq-shakyo.or.jp/>

検索